

アメリカ組織キャンプにおける儀式プログラム
 -Camp O-AT-KA におけるギャラハッド(騎士)プログラム-

高橋 伸(国際基督教大学)

キーワード: 組織キャンプ、Camp O-AT-KA、儀式プログラム、ギャラハッド、騎士

1、はじめに

アメリカの組織キャンプは、指導者とともに長期の集団生活を通して、青少年の全人格的成長を主な目的として発展してきた。多くの組織キャンプはその目的の実現のために独自の教育方針や理念をもち、プログラムにその特徴を反映させるものもよく見られる。代表的なものはアメリカインディアンの風俗、風習を取り入れたもので、彼らの世界観、人生観から学ぼうとするものである。こうしたプログラムは儀式化されたものが多く、キャンパーの精神的、人格的な成長に寄与する目的で行われていると思われる。

本報告は第 28 回(1998 年)、第 36 回(2006 年)学会大会で発表した(注1)、キャンプ・オーアトカ(Camp O-AT-KA)に関する実地調査・研究の一環である。今回はアーサー王伝説に基づいた儀式プログラムとして行われる「ギャラハッド・プログラム」に焦点を当て、キャンプにおける育成目標となる具体的人格像が示されている点に注目し、その意義を明らかにしようとするものである。

2、キャンプ・オーアトカの概要

1906 年(明治 39 年)、米国キリスト教聖公会(Episcopal Church)デネン牧師(Rev. Dennen)によって、米国最東部メイン(Maine)州セバゴ(Sabago)湖畔に創設されたトラディショナル・キャンプである。

対象は7~15 歳の少年(3 ユニット)、約 110 名(1 期)、スタッフはディレクター以下、シニアスタッフ、リーダー、看護婦、管理スタッフなど約 45 名。期間は第 1 期 4 週間、第 2 期 3 週間である。

3、ギャラハッド・プログラム

1) 概要

キャンプ・オーアトカでは、キリスト教精神を基盤とし、子ども達の成長に託した理念の具体的な人格像として、英国のアーサー王伝説や聖杯伝説に登場する円卓の騎士の一人ギャラハッド卿を崇めている。ギャラハッド卿は聖杯を見つけた理想の騎士とされ、欧米の少年達が心躍らせる冒険物語の主人公である。

表1、騎士への5段階

区 分	モットー
Lads 少年 / 7~10 歳	Helpfulness / 役立
Pages 付き人 / 11~13 歳	Obedience / 忠実
Esquires 少年騎士 / 14~16 歳	Truth / 真理
Knight 騎士 / 17~20 歳	Chivalry / 騎士道精神
騎士カウンセラー Knight Counselors / 21 歳以上	Service / 奉仕

青少年育成に情熱を持っていたデネン牧師は、ボストンの教会で働き始めた 1896 年にギャラハッド・クラブを始め、1906 年のキャンプ開始とともに重要なプログラムとして取り入れた。このねらいは「少年の信仰を実現すること。日々の生活の中で信仰について知らしめ、キリストの道に従って生きることを援助すること」(注2)である。

キャンパーやスタッフは、様々な儀式プログラムなどを通して、ギャラハッドのような騎士になるよう努力することを求められる。騎士となるためには年齢に応じて5つの区分があり、その段階によって心がけるべきモットーが設定され(表1)、最終的に一人前の騎士として認められるのである。

2) プログラム内容

ギャラハッド・プログラムは、毎年リーダーの中から選ばれた者が王様(アーサー王)となり、キャンパー・スタッフの希望者から選考された従者らとともにプログラムを執り行う。プログラムには儀式として独自に行うもの(表2)と、キャンプ全体として行われるプログラム(表3)があり、実施の際には王様は服、ガウン、王冠、サ

一ベルを身にまとい、従者は簡単な衣装を身に着け、故事に習ってそれぞれの役割を演じる。

(1) 主な儀式プログラム

戴冠式は最初の日曜礼拝に行われ、キャンパー・スタッフ全員がキャンプ場内の教会に集い、伝統的な式次第により厳かに行われる。

「裁きの法廷」は、平日夕方に騎士希望のキャンパーに対して行われる。数人ずつ従者に目隠しをされて王様の前に連れてゆかれ、そこで普段の行いを正されたり騎士としての心構えを論される。

「寝ずの番」は騎士となるための試練で、騎士希望者が、騎士カウンセラーとともに夜の教会で礼拝と瞑想を行う。

表2 儀式プログラム

戴冠式 Coronation	毎年、選ばれたリーダーがアーサー王となる。最初の日曜礼拝に行われる。
裁きの法廷 Tribunal	騎士希望のキャンパーが王の前で普段の行いなどを問ひ質される。
秘密会議 Conclave	騎士、騎士見習いなど、段階ごとに集まり、ミーティングを行う
寝ずの番 Knight's Vigil	騎士希望者が騎士カウンセラー等と夜の教会で礼拝と瞑想をする
キャンプ・ファイアー Council Fire	キャンプ開始時ではギャラハッド・プログラムについての説明、終了時では王様、巫から山形袖章授与

(2) その他のプログラム

イブニング・プログラムは夕食後、全員が講堂に集り、映画会や専門家によるマジックショー、音楽ショーなどを楽しむが、これは王様主催のプログラムとして行われ、王様、従者も共に楽しむ。

王様の日にはキャンプ場全体を二組に分け、キャンパーとリーダー・スタッフそれぞれが、各種スポーツの対抗戦を一日かけて行う。夕食は互いの健闘を称えて晩餐会が開かれる。

ほとんどのギャラハッド・プログラムでは、プログラム中や終了時に「ギャラハッドの歌」が歌われる。この歌詞には騎士たる者の姿勢や心構え、理想の騎士であるギャラハッドを称える文言が記されている。

表3 その他のプログラム

イブニング プログラム	王様主催のプログラム。マジックショー、音楽ショー、映画会など
王様の日	キャンパー・スタッフが青・白組に分かれて行う対抗スポーツ大会
ギャラハッドの歌	騎士の人物像、ギャラハッド候を称えるうた。事ある毎に斉唱する
環 境	主な施設の壁に物語絵、盾形の賞など
シェブロン (山形袖章)	各実修活動で一定の技能を修得すると王様から授与される

4、儀式プログラムの意義

1) 具体的人格モデルの明示

ギャラハッド・プログラムはキリスト教を基盤とした理念に基づき、キャンパー・スタッフに求められる具体的人格像が明示されている。更に、年代ごとに心がけるべき目標が示されており理解しやすい。

2) 儀式プログラムの効果

様々な儀式プログラムに実際に参加することにより、より親近感のある人間像を見ることができるとともに、自らを主観的、客観的に振り返る機会が与えられる。

3) 行動規範とその生活化

キャンプ生活の中で行われることで、幅広い年代のキャンパー・スタッフが、実際にどのように振舞い、行動しているか、様々な人間モデルを実際に見ることができ、本人も日常生活の中で実践できる。

4、まとめ

ギャラハッド・プログラムが、キャンプにおける青少年の人格的成長に大きく寄与していることが確認できた。今後はさらに考察を加え、この意義を生かす方法を検討してゆきたい。

注1、 Camp O-AT-Kにおける伝統性、レジャーレクリエーション研究39号、1998、P64-67

レジャー教育としてのキャンプ・プログラム、レジャーレクリエーション研究 57 号、2006、P34・35

注2、 Camp O-AT-KA, A Clearing in the Woods, The Rev. Donald A. Nickerson, Jr, 2006